

令和3年5月吉日
(一社)兵庫県サッカー協会

育成年代への指導に対する注意喚起

育成年代のサッカー環境に関わる指導者は、子どもたちにとって何が一番良いのか、という観点で様々な判断しなくてはならないと考えます。

しかし、目の前の勝ち負けに拘りすぎて子どものサッカーへの気持ちを削いでしまう事例があり、(一社)兵庫県サッカー協会の相談窓口には、子どもたちや保護者から行き過ぎた監督・コーチの言動に振り回され苦しんでいるという相談が数多く届いております。暴力・暴言の他にも、子どもに痛み止め(ロキソニン)を投与しプレーを続けさせたという事例の相談もありました。

サッカー少年少女たちの気持ちや身体の健全な成長を一番に考えて頂き、今一度指導内容等に暴言・暴力を用いていないか、薬物服用を強要して子どもの意に反してプレーさせていないか振り返り、子どもたちのサッカー選手の夢を育てていただきたいと思います。

なお、改善が見られない団体等には協会から厳しく指導し処分も検討していきたいと考えます。皆様のご理解ご協力を賜りますよう宜しくお願い申し上げます。